

令和5（2023）年度地域医療連携推進評議会の開催結果について

評議会開催日：令和5（2023）年6月22日

令和5(2023)年度地域医療連携推進評議会の開催結果

1 日 時 令和5(2023)年6月22日(木) 11:00~12:00

2 出席構成員 5名(うち、WEBによる参加2名)

3 結 果

- (1) 資料1(略)及び資料2(略)により、令和4(2022)年度の業務の実施状況等及び日光ヘルスケアネット医療機能分担・業務連携計画の令和4年度の進捗状況に係る評価案について説明したところ、異議なく了承された。
- (2) 議事終了後、意見交換を行い、別紙のとおり意見や質疑が出された。

別紙 意見交換の概要

意見又は質疑の概要	質疑等に対する回答
<p>【運営全般】</p> <p>○日光ヘルスケアネットでは、医療機関等の相互の連携のため、様々な取組をしていることは、承知している。今後も、連携推進の取組を行っていただきたい。</p> <p>○日光ヘルスケアネットの取組状況の説明を聞き、地域における連携の取組が確認できた。引き続き、医療機能の分担と業務の連携に取り組まれない。</p>	
<p>【今後の取組方向】</p> <p>○今後の取組方向において、入退院調整が困難な事例に係る包括支援センターを含めた法人関係者による検討、調整の場の設置とあるが、このような事例について、どのような対応しているのか。</p>	<p>○患者や入所者の入退院調整については、これまでも関係者間で適宜調整してきたところであるが、経済的な理由や身寄りがいないなどの理由で、調整が困難になる場面も見られる。そのような場合に、日光ヘルスケアネット事務局において、地域包括支援センターも含めた協議・調整の場を設けることとしたものである。ただし、これまでのところ対象となる事例はない。</p>

意見又は質疑の概要	質疑等に対する回答
<p>【進捗状況の評価－入退院調整】 ○入退院調整に係る評価指標を見ると、地域医療支援病院の紹介率・逆紹介率が低下し、C評価となっているほか、地域包括ケア病床の在宅復帰率も低下している。この結果について、どのように捉えているのか。</p>	<p>○新型コロナウイルス感染患者が回復した後、直ぐには在宅復帰ができない場合、後方支援病院等に転院することになる。地域医療支援病院の紹介率、逆紹介率の低下については、これらの転院調整に時間を要したことなどが影響している。</p> <p>また、地域包括ケア病棟の在宅復帰率については、毎年度上昇していくものではなく、年度によって変動があるのは止むを得ない。地域包括ケア病棟入院料の算定要件に対し、令和4年度の実績は基準以上であり、在宅復帰に繋がっている状況と評価している。</p>
<p>【進捗状況の評価－入退院調整】 ○高額医療機器の共同利用については、非常に良い取組であり、これまで多くの利用があったと思うが、特にどのような医療機器の共同利用がされてきたのか。</p> <p>また、医療機器の共同利用を利用に際し、医師としては、手続きが少し面倒に感じる。</p>	<p>○医療機器の共同利用は、MRI、CTの利用が殆どであるが、最近は骨密度測定装置の利用もある。</p> <p>医療機器の共同利用は、かかりつけ医からの検査医療機関への事前の予約と問診票の送付のみで、直接検査を受けられるものである。従来の紹介状持参と比較すると、医師の負担は増えるかもしれないが、患者にとっては、簡易な手続きとなっている。</p>